

令和 7 年度 予算説明書



守谷市

〔教育委員会 生涯学習課 所管〕

03020111 児童クラブ運営事業

予算書P. 119

(単位: 千円)

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	366,488	322,062	44,426	
国庫支出金	51,797	69,055	△ 17,258	子ども・子育て支援交付金(放課後児童健全育成事業)
県支出金	51,797	69,055	△ 17,258	子ども・子育て支援交付金(放課後児童健全育成事業)
地方債	0	0	0	
その他	52,680	47,321	5,359	児童クラブ入所負担金
一般財源	210,214	136,631	73,583	

【背景(なぜ始めたのか)】

共働き家庭が増加する中、就労支援対策として、平成4年9月仲町(現守谷小学校)児童クラブの開設をスタートに、平成5年に北守谷(現御所ヶ丘小学校)児童クラブ、平成7年に南守谷(現松ヶ丘小学校)児童クラブを開設し、平成8年度から平成12年度までの間に全小学校に児童クラブを開設した。

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

放課後帰宅しても、就労などにより保護者が日中家庭にいない小学生を対象に、安全・安心な居場所を確保し、保育の質の向上に努め、引き続き、保護者の就労を支援するとともに、児童の健全育成を図る。

【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

公設児童クラブは、運営業務を民間事業者に委託し、平日の授業終了後から午後7時まで、土曜日、長期休業期間及び学校振替休業日の午前7時30分から午後7時まで、小学校ごとに整備した専用室において運営しており、さらに、同一小学校内で実施する放課後子ども教室と一体型で活動プログラムに参加できる体制を整える。また、黒内小学校の児童数増加に伴う特定地域選択制度や、学校の適正配置計画に対応した公設児童クラブ及び民設児童クラブの支援(部屋)数確保により待機児童ゼロの継続に努め、施設の特徴を生かした児童の預かりサービスを提供する。

1 公設児童クラブ

[運営業務委託先] (株)アンフィニ

[運営委託期間] 令和7年4月1日～令和12年3月31日 5年間

2 民設児童クラブ

[運営補助対象] (株)ウェルビー、(社)明岳会・(株)ウェルビー共同事業体、(株)こどもbeing

[補助期間] 令和7年4月1日～令和8年3月31日 1年間



室内遊び(松前台小児童クラブ)



サツマイモの苗植え(郷州小児童クラブ)

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	7,203	6,476	727	
国庫支出金	0	0	0	
県支出金	0	0	0	
地方債	0	0	0	
その他	0	0	0	
一般財源	7,203	6,476	727	

【背景(なぜ始めたのか)】

市民が行う芸術文化活動の自主性・創造性を尊重し、その活動を促進するとともに、各団体等の相互の連携・協力の機会提供を通して、担い手の育成及び市における総合的な芸術文化振興の推進を目指して開始した。

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

市民やサークル・団体等に芸術文化活動の発表の機会を提供するとともに、昭和52年に設立された「守谷市文化協会」に対する補助事業、県主催のアーカスプロジェクトへの参画や守谷市美術作家展の開催を通して、市民が身近に芸術文化に触れることができる環境の充実を図る。

【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

1 守谷市芸術祭

もりりん中央(中央公民館)を主会場に、市文化協会との共催による美術展、若い芽のコンサート、ふれあい茶会、芸能祭を開催する。

2 守谷市美術作家展

市民交流プラザギャラリーを会場に、郷土に根付く美術作家による作品展を開催し、芸術鑑賞の機会を提供する。

3 市文化協会への活動支援

芸術文化活動を通して、市の発展と市民の文化交流に努める市文化協会の活動を支援する。

(守谷市芸術祭のほか、講座・教室、コンサート等開催予定。団体数：74団体、会員数：456名)

4 アーカスプロジェクトへの参画(事務局：県)

もりや学びの里にアーティストを招へいし、負担金を支出することで制作支援を行い、活動発表会(アーティスト・イン・レジデンス)や、市民向けアートイベント(地域プログラム)を開催する。



守谷市芸術祭美術展

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	70,154	69,227	927	
国庫支出金	0	0	0	
県支出金	9,070	7,735	1,335	運動部活動地域連携再構築委託金
地方債	0	0	0	
その他	10,094	1,233	8,861	ふるさとづくり基金繰入金
一般財源	50,990	60,259	△ 9,269	

【背景(なぜ始めたのか)】

平成30年3月、国から「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が示され、地域との連携を含む学校部活動の見直しが言及された。これを受け、県が策定した「部活動の運営方針」をもとに、令和5年1月から休日の中学校部活動地域移行の実証事業を開始した。

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

国(スポーツ庁・文化庁)が示す令和5年度から令和7年度の改革推進期間内を目途に、教職員の働き方改革を推進するとともに、子どもたちがスポーツ・文化等、一人ひとりのニーズや志向に応じて活動を選び、自主的・自発的に参加でき、安全・安心に活動できる環境づくりを進める。

【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

全中学校における休日の部活動の管理・運営を一般社団法人守谷市スポーツ協会に委託し、30部活動を目安に主たる指導者となり得る地域人材を配置するとともに、地域移行が可能な一部の競技・種目については地域クラブの結成を支援し、地域展開を促進するほか、受益者負担の検討や各種支援制度の策定等を含めて、生徒がより充実した活動ができる環境づくりを進める。



民間クラブとの連携によるテニス特別教室



指導者研修(AEDを用いた心肺蘇生法)

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	56,298	54,042	2,256	
国庫支出金	0	0	0	
県支出金	21,592	14,540	7,052	放課後子供教室推進事業費補助金
地方債	0	0	0	
その他	5,816	6,920	△ 1,104	放課後子ども教室事業保護者負担金
一般財源	28,890	32,582	△ 3,692	

【背景(なぜ始めたのか)】

子どもたちに関わる重大事件の発生等の青少年の問題行動の深刻化、地域や家庭の教育力の低下等の課題に対応し、心豊かでたくましい子どもを社会全体で育むため、地域の方々の協力を得て、平成19年度から小学校の教

室等を活用して子どもたちが安心して活動できる居場所を提供している。

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

小学校の施設を活用して、地域住民の参画を得て、子どもたちに安全な放課後の活動場所を提供する。子どもたちの自主的な活動（学習・遊び等）を通して、幅広い世代との関係を構築し、豊かな放課後の環境づくりを推進する。

【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

運營業務を民間事業者に委託して児童クラブと一体型の運営を行う。小学校の校庭・体育館・特別教室等を活用し、プランマネージャーを中心に、放課後子ども教室支援員及び地域ボランティアが連携して学習や体験・交流活動等の場を提供する。

また、学校・地域等の支援により、スポーツ・文化活動、学習支援をはじめとする継続的な学びの提供や、朝の校庭・体育館の開放など、新たなプログラムの創設を検討する。

〔運營業務委託先〕（株）アンフィニ

〔運営委託期間〕令和7年4月1日～令和12年3月31日 5年間

10040202 文化財保護事業

予算書P. 234

(単位: 千円)

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	8,182	16,884	△ 8,702	
国庫支出金	3,209	4,723	△ 1,514	新しい地方経済・生活環境創生交付金
県支出金	0	0	0	
地方債	0	0	0	
その他	3,313	10,130	△ 6,817	ふるさとづくり基金繰入金
一般財源	1,660	2,031	△ 371	

【背景(なぜ始めたのか)】

文化財保護法の規定により、昭和52年に守谷市文化財保護条例を制定し、先人からの優れた遺産である文化財を適切に保護・活用し、未来に伝えていくこととした。

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

市内に存する有形無形の文化財を保護し、未来に伝えていくとともに、文化財愛護や郷土理解の心を育む。

【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

文化財保護審議会の答申に基づき、市内の文化財調査に取り組み、特に価値の高いものについては、指定や記録保存等の措置を講ずる。

市指定史跡や天然記念物については、保護・保存・維持管理を行うとともに、埋蔵文化財の所在が見込まれる土地で土木工事が行われる場合には、事前に試掘調査を行う。

また、新たに「守谷市デジタルミュージアム」に加わったキッズページの利活用を促進し、子どもたちに、郷土の歴史・文化に触れる機会を提供する。



無形民俗文化財「八坂神社祇園祭」



史跡「守谷城址」と周辺地域

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	155,459	147,075	8,384	
国庫支出金	0	0	0	
県支出金	0	0	0	
地方債	0	0	0	
その他	592	364	228	公民館貸付料
一般財源	154,867	146,711	8,156	

【背景(なぜ始めたのか)】

市民のコミュニケーション及び生涯学習の場を提供するため、昭和56年に中央公民館、平成4年に郷州公民館、平成8年に高野公民館、平成11年に北守谷公民館を開館した。

平成24年度からは指定管理者制度を導入し、民間事業者が有するノウハウを活用した施設の管理運営を開始した。

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

多様化・高度化する市民の学習ニーズに対し、幅広い年齢層に学習機会の提供を行い、利用者が安全で快適に学習活動や趣味活動等ができる場所を提供する。

指定管理者による管理運営により、市民ニーズに効果的、効率的に対応し、民間能力の活用とサービス向上を図る。

【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

新たな指定管理者と連携しながら、利用者や地域住民との関わりを大切にし、意見や考えをしっかりと取り入れ、地域性を生かした事業展開をしていくことにより、生涯学習とコミュニティの拠点に相応しい施設運営に努める。

指定管理者による施設の管理運営を行い、適正かつ確実なサービスが提供されているか、サービスの安定的・継続的な提供が可能な状態にあるかなどを確認するための月次報告に加え、現地調査、管理運営状況の評価等を行うモニタリングを実施し、必要に応じて改善に向けた指導・助言を行う。

引き続き、公共施設予約システムの利用を促進し、使用者の利便性向上を図る。

[指定管理者] 特定非営利活動法人日本スポーツ振興協会

[指定期間] 令和7年4月1日～令和17年3月31日 10年間

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	427,873	276,995	150,878	
国庫支出金	0	0	0	
県支出金	0	0	0	
地方債	378,000	248,000	130,000	北守谷公民館改修事業債
その他	49,873	28,995	20,878	ふるさとづくり基金繰入金
一般財源	0	0	0	

【背景(なぜ始めたのか)】

北守谷公民館は平成11年に建築され、地域に充実した生涯学習の場を提供してきたが、建築後25年が経過し、施設・設備の経年劣化や機能低下が著しいため、令和5年度に実施設計を行い、令和6年度から概ね1年間のスケジュールで改修工事を行う。

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

利用者が安全に安心して使用できるよう施設・設備の改修工事を実施し、快適な学習活動や趣味活動等の場を

提供する。

【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

令和7年10月のリニューアルオープンに向けて、公民館個別施設計画に基づき、大規模改修工事を進め、施設・設備の機能向上及び指定避難所の機能を有した安全・安心で持続可能な環境を整備する。

〔主な工事（予定）〕

エレベーター交換、建物外部（屋根・外壁等）改修、内装全般仕上、トイレ改修、照明器具更新、ホール照明・音響設備更新、給排水設備・消防設備・受水槽設備改修、空調設備（一部GHP）更新等

10050104 市スポーツ協会補助事業

予算書P. 244

（単位：千円）

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	20,000	20,000	0	
国庫支出金	0	0	0	
県支出金	0	0	0	
地方債	0	0	0	
その他	0	0	0	
一般財源	20,000	20,000	0	

【背景(なぜ始めたのか)】

市民がスポーツに親しむことができ、技術の向上、健康増進と地域の親睦・融和を図るための組織として、昭和43年に設立された「守谷市体育協会」に対する補助事業として開始した。

※令和3年4月、法人化により「一般社団法人守谷市スポーツ協会」に組織変更

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

市民の健康増進と体力向上のため、各種運動競技の普及発展と競技力向上を目的に活動する市スポーツ協会の自主的な事業を支援し、市民交流とスポーツ活動の推進を図る。

また、市が主催するスポーツ大会やイベント等の業務委託、事業協力など体制強化を図る。

【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

組織体制及び事業実施体制の整備のため、引き続き、市から事務局職員を派遣する。協会が雇用する事務局職員と連携・協力を図り、収益事業による安定した自主財源の確保や、市のスポーツ団体の総括として運営基盤の強化を目指し、協会の自立を促進する。

中学校部活動地域移行に関する業務を監督するとともに、スポーツ振興の核となる人材育成に期待し、総合型地域スポーツクラブの創設を検討・促進する。また、市スポーツ協会が主催する各種スポーツ大会、技術講習会等の活動を推進し、市民がスポーツ活動に参加することにより、体力の向上及び健康増進を図るとともに、市スポーツ協会及び加盟団体の組織強化を支援する。

〔部会数〕22部会（令和7年1月現在）

〔事務局職員体制〕事務局長1名（市派遣）、他職員4名（専従）

10050105 市スポーツ少年団補助事業

予算書P. 244

（単位：千円）

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	4,192	4,323	△ 131	
国庫支出金	0	0	0	
県支出金	0	0	0	
地方債	0	0	0	
その他	0	0	0	
一般財源	4,192	4,323	△ 131	

【背景(なぜ始めたのか)】

青少年の健全育成と少年期におけるスポーツの楽しさを教えるため、昭和57年に設立された「守谷市スポーツ少年団本部」に対する補助事業として開始した。

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

各種競技の普及・発展、競技力向上と各少年団間の交流を目的に活動するスポーツ少年団本部の自主的な事業を支援し、青少年健全育成と児童の体力向上に寄与する。

【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

補助金を交付することで、スポーツ少年団が部会単位で開催する各種スポーツ大会、技術講習会等の運営費及び守谷市の代表として出場する全国大会等遠征費を助成する。

また、市内及び近隣自治体スポーツ少年団との交流会を実施することで、単位団相互の交流を深め、親睦を図るとともに、子どもたちの体力、精神面の健全な発達と集団の中での協調性を養う。

[スポーツ少年団数] 21単位団 (令和7年1月現在)



令和6年度全国大会出場チーム 左:松ヶ丘エース(ソフトボール) 右:守谷クラブ(ハンドボール)

10050107 スポーツによる地域活性化推進事業

予算書P. 244

(単位:千円)

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	3,680	4,422	△ 742	
国庫支出金	0	0	0	
県支出金	0	0	0	
地方債	0	0	0	
その他	140	90	50	各種スポーツ事業参加費
一般財源	3,540	4,332	△ 792	

【背景(なぜ始めたのか)】

国(スポーツ庁)が推進するスポーツによる地域活性化施策と連携し、市民生活の質の向上や健康増進、さらに、地域の特色を活用した交流の創出を狙う取組を充実させることを目指して開始した。

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

市民のスポーツ・運動習慣定着化の促進及び個々の適性やライフステージに応じたスポーツの機会提供を行うとともに、市スポーツ協会や近隣自治体等との連携により、スポーツ推進体制の強化を図り、スポーツによる地域活性化に持続的に取り組む。

【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

1 各種スポーツ大会

参加者相互の交流と親睦を図る機会を提供するため、市スポーツ協会への委託により、軟式野球大会、バドミントン大会、バレーボール大会、バスケットボール大会、ソフトテニス大会、テニス大会、ソフトボール大会、グラウンドゴルフ大会及び卓球大会を開催する。

また、2019年茨城国体を記念し、常総市・坂東市と共催で、茨城県中学校ハンドボール大会を開催する。

2 スポーツ教室・交流体験

幼少期の子どもたちに必要な動作や技能、コミュニケーション能力を育むため、親子で参加できる児童向け

遊びプログラムを提供する。

また、スポーツの基本となる正しい体の使い方を学ばせたいという保護者のニーズと、子どもの体力や身体機能低下を改善するため、専門的な知識を有する指導者による走り方教室や、投げ方教室などを開催する。



投げ方教室



児童向け遊びプログラム

10050108 守谷ハーフマラソン開催補助事業

予算書P. 245

(単位：千円)

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	8,000	8,000	0	
国庫支出金	0	0	0	
県支出金	0	0	0	
地方債	0	0	0	
その他	0	5,120	△ 5,120	
一般財源	8,000	2,880	5,120	

【背景(なぜ始めたのか)】

マラソンを通じて市民相互の交流と、市の知名度向上を図るため、昭和59年から実施している大会に対する補助事業として開始した。

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

「守谷ハーフマラソン」への参加により、幅広い年齢層の人々に健康増進をもたらすとともに、全国から訪れるランナーや関係者等に守谷市の素晴らしさをPRする。

また、大会運営に多くのボランティアが参加しており、市民相互の交流を深める機会になっている。

【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

市・市教育委員会・市スポーツ協会・茨城陸上競技協会が主催し、関係団体で構成する実行委員会が大会を主管することで、市補助金、参加費、企業協賛等の財源に加えて、民間助成金の活用により開催する。

日本陸上競技連盟公認コースで、茨城陸上競技協会の公認大会となっているハーフマラソンのほか、5km及び小中学生対象の1マイルレースの種目を設定し、ランナーが健脚を競い合う。

運営係員は約800名で、市スポーツ協会会員をはじめ、多くの市民ボランティアの協力を得ている。引き続き、全国から訪れるランナーへのおもてなしの意識を市全体に定着させ、ソフト面でより充実した大会となるよう取り組む。